

「主が共におられる幸い」

創世記 26 章 11 ~ 31 節

「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と聖書にあります。聖書でイサクの出てくる箇所を探すと、私たちはアブラハムやヤコブに比べてとても少ないことに気づかされます。また、私たちがイサクと聞いて思い浮かぶ箇所は多く場合、父アブラハムに連れられていけにえとして捧げられる少年イサクの姿ではないでしょうか。この部分はイサクにとって栄光の時代のように思えます。しかし、今回みていく箇所は成人し地味で黙々と井戸を掘る泥臭いイサクの姿です。ここから今日、私たちは神様と共に生きるということについて励ましを得ながら学んでいきましょう。

■ ① 争わないイサク

創世記 26 章には主の祝福をねたむアビメレクが出てきます。彼はイサクが神様に祝福され豊かになっていく時、最初はイサクをそばに置くことを考えます。しかし次第にイサクをねたむようになり、ある時手のひらを返したように国から追い出してしまいます。私たちが生きる社会でも最初は良い関係だったのに、自分の都合が悪くなると嫌がらせをして関係を切ってしまうということは、よくある話ではないでしょうか。アビメレクもこの時井戸を埋めるといふ嫌がらせをイサクに対してするようになりました。しかしその中でもイサクは一生懸命井戸を掘ります。このことに対してイサクは理不尽に思わなかったのかと疑問に感じますが、正直者が馬鹿をみるような現実があってもイサクはひたすら井戸を掘り続けました。そして、追い出されたイサクはその後ゲラルの地に住むようになります。しかしそこでもひたすら井戸を掘ります。例え井戸を略奪されたとしても次の井戸を掘り、また奪われても掘ることを繰り返しました。そんなイサクの争わない姿をみて、おかしいのではないかと、リーダーなら強気であって欲しいと思える人もいるかもしれません。現に父アブラハムはアビメレクに抗議していたので、争わないことは一見弱いことのように思えるでしょう。しかし、徹底して争わないイサクの姿から私たちは自分の力ではなく神に頼る姿をみることができるのです。

■ ② 主に祝福されたイサク

主の祝福を感謝するイサクはその後ベエル・シェバ（イサクにとって譲りの地）に住み着きます。この場所は神様が共におられることを確信できる場所でした。そこに主は現れ「わたしはあなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいる。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加えよう。わたしのしもべアブラハムのゆえに。（創 26：24）」とイサクに変わらない愛を示し続けました。そしてイサクはこの場所に祭壇を築き、神様を礼拝しました。ここから話が展開し、イサクを自分の国から追い出したアビメレクが再びイサクの前にあらわれます。普通に考えると今更何をしに来たのかと思える部分です。イサク自身も「なぜ、あなたがたは私のところに来たのですか。あなたがたは私を憎んで、あなたがたのところから私を追い出したのに。」と尋ねます。それに対しアビメレクは予想だにしない言葉を返してきます。アビメレクはイサクが神様に祝福されており神様が共におられるので盟約を結びたいと言ってきたのです。自分から関係を断っておきながら、ずいぶん虫のいい話です。自分が正しいと思っていて、言ったことを平気で覆すアビメレクの姿がここからみてとれます。さ

すがにこんな相手には切れても良いように思えます。しかしイサクは祝宴を開いて彼をもてなしたのです。この行為にはどこまでイサクはお人好しなのかと呆れてしまうところですが、この結果、お互いが平和のうちに別れることができます。これは少しくらい事を荒立ててもよいことでさえ決して争わず黙々と忍耐強く井戸を掘るイサクの姿に、アビメレクは神様がイサクと共におられるということに認めさせた結果といえるでしょう。

私たちは日常の中で目に見えること、人に注目されるような何か特別なことが大事だと思ってしまうことがあります。しかし今回の聖書箇所のイサクはアビメレクに対して大きなことをしてギャフンと言わせたのではなく、平凡な歩みの中で主が共におられるということを実し、神様が共におられることを認めさせました。ここから私たちは、人と比較して何かをするのではなく、神様から言われたことを黙々と行うことがどれだけ大切かということを学ぶことができます。

■ 結び

問「生きるにも死ぬにもあなたのただ一つの慰めは何ですか？」

答「私が私自身のものではなく、体も魂も生きるにも死ぬにも私の真実な救い主イエス・キリストのものであることです。これが私たちの唯一の慰めなのです。」

そこにあるのは、「主のものとされた喜び」であり、「主が共におられる幸い」です。

私たちは何かできることも素晴らしいけれど、そうでなくとも神様が共におられることが慰めです。改めてイサクがアビメレクに言わしめた御言葉を確認します。『それで彼らは言った。「私たちは、【主】があなたとともにおられることを、はっきり見たのです。それで私たちは申し出をします。どうか、私たちの間で、すなわち、私たちとあなたとの間で誓いを立ててください。あなたと契約を結びたいのです。それは、私たちがあなたに手出しをせず、ただ、あなたに良いことだけをして、平和のうちにあなたを送り出したように、あなたも私たちに害を加えないということです。あなたは今、【主】に祝福されています。」（創世記 26：28-29）」アビメレクは移り気でしたが、イサクはぶれることなく黙々と神様に仕えました。神様が共におられることに私たちは目を向けるべきです。井戸を掘り続けたイサクはアビメレクに上記の言葉を言わしめました。

そしてこのイサクの神様は、今を生きる私たちとも共にいてくださっています。普通の存在と思える私たちにとってイサクの姿は大きな励みであり力です。ですから、いつでもどんなときでも主の者とされている幸いを覚え、主が共におられる幸いを喜ぶ者となりましょう。

(要約者:平澤 瞳)

(2019年6月23日)